

水のありがたさ

沖縄県 豊見城中学校 三年 亀谷 珀瑠

あなたは、私たち日本人が一日どれだけの水を使用しているか知っていますか。

私たち日本人は一人当たり一日約二百二十リットル以上の水を利用しています。一方、アフリカの一部地域では、二十リットルの水しか確保できていない現状があります。このようなことから、日本のように蛇口をひねると当たり前前に水が確保できるのは、水に恵まれた国であり、ありがたい現状だと考えます。

また、発展途上国で水が確保できていない理由として、水資源の管理が不十分であることや、水質汚染などが原因として挙げられています。それらを改善し、水を普及させるためには、金銭的支援だけでなく、技術支援が大切だと考えます。このようなことが実現することで、水を巡った紛争をなくすことができます。

ところで、沖縄県の観光資源の一つである海の汚染問題についても重視されています。海洋ごみは年々増え続けており、このまま何の対策も行わなければ二〇五〇年には海洋に住む魚などの生物よりもごみの方が多くなると予想されています。海洋汚染によって魚が生きにくい環境となり、生態系のバランスが崩れ、私たちの食べている魚の量が減ってしまうのです。このようなことから、海洋汚染問題は決して他人事ではないので、一人一人が環境問題に対して意識を持ち、行動すべきだと考えます。

日本は豊かな水に恵まれています。が、とても地震の多い国です。地震によって水が使えなくなった時、どのような問題が生じ、どのような対策があると思いますか。生じる問題として、水道が途絶え、トイレの使用や飲み水の確保などが必要になります。それらを対策するには、日々の生活の中で備蓄や簡易貯水タンクの準備が必要です。

私は、水にたくさんの方が可能性があると考えました。水を電気分解し、水素と酸素に分け、水素をロケットの燃料に使い宇宙開発を進めたり、酸素をオゾン層作成などに使えないかと考えました。オゾン層の研究が進められ作成が可能になると、地球温暖化問題が解消され、先進国の地球温暖化問題に充てられていた費用が発展途上国の水問題解決に向けた支援に充てられることで、水に困っている人たちが減ると期待できます。その例として、井戸や水道設備の整備によって遠距離の水汲みから解消され、安全に水を手に入れることができます。また、トイレや手洗いの施設を作ること、衛生管理をすることができ、病気を防ぐことができます。

水は、私たちの生活を支える重要な資源であり、命の源です。しかし、水に関する問題も多くあります。水問題を解決しなければ、明るい未来を築いていくことはできません。水は無限にあるものではなくて、限りがあるものだと認識し、大切にしなければならぬと思いました。